

幌北冬のつどいと ミニミニ雪まつり 及び 幌北歩くスキーのつどい 御案内

清清しい新春を迎えられ皆様方におかれましては益々ご壮健でお過ごしのこととお慶び申し上げます。また、日頃より連町「つどい」事業にご理解・ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。さて、例年各町内会役員と体育振興会等関係団体のご協力をいただき開催している『冬のつどい』を、今年度は「学生と地域で考えるまちづくり会」の『ミニミニ雪まつり』と合同の行事として実施します。是非、ご家族・ご近隣お誘い合わせご参加下さい。

平成二十八年一月 吉日

幌北連合町内会長 小田島義雄

第二十五回 幌北冬のつどいと ミニミニ雪まつり

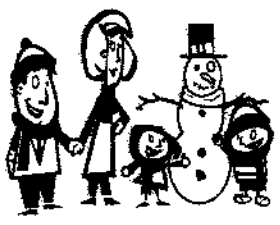
地域ぐるみの運動会と紙コップキャンドルづくりです。大人も子供も高齢の方々もみんなで楽しみましょう。

日時 平成二十八年二月十四日(日) 午後一時開始

場所 幌北小学校グラウンド と 体育館

内容 パン食い競走、雪中リレー、そり競争
紙コップキャンドルづくり、クイズ大会
温かいミルクと甘酒・お汁粉・焼き(い)もなども出ます。

会費 無料です。誰でも、お気軽にご参加ください



幌北歩くスキーのつどい

気楽に楽しめます。大自然の中で、心地よい汗とふれあいを・・・
スキー類はモエシ沼公園センターで貸し出します。(貸し出し料金は主催者が負担します)
初心者でも気軽に楽しめます。(付近の散策やその遊びもできます。)



目的地 モエシ沼公園コース・モエシ天然温泉たまゆらの杜

日時 平成二十八年二月二十一日(日) 九時集合く十七時解散

集合 幌北小学校東玄関前 (集合・解散) 定員四十名

会費 二、五〇〇円 子供 五〇〇円(温泉・会食付)
(他の飲み物食べ物各自持参)

申し込み 保険や諸準備のため申し込みが必要
希望者は、幌北まちづくりセンター(七二六―六三四五)まで
締切日は、二月十五日(月)ですが、定員になり次第締め切ります。

身近な地域で、健康作りと仲間作り！！

すこやか倶楽部

2・3月のご案内

発行

介護予防センター新道南

☎707-4129

担当：生出(おいで)

幌北会館すこやか倶楽部 北17条西5丁目 10:00~11:30

2月5日(金)

「脳いきいき教室」

脳いきいき教室は、認知症予防を
‘楽しく・気軽に’行うことが目的
です♪ミニ勉強会・頭も体も使う
体操・脳トレ問題…盛りだくさん
のプログラムでお待ちしています。
動きやすい服装で、楽しみながら
ご参加を♪



3月4日(金)

「続・脳いきいき教室」 &「平成27年度修了式」

持ち物:材料費100円

2月に続き、前半は脳が回転する
(?!)ゲームやレクをご用意。
後半は、修了式として皆勤賞の
表彰があります。最後は簡単な
おやつ作りで締めくくりを♪

鉄西会館すこやか倶楽部 北10条西4丁目 10:00~12:00

2月18日(木)

「脳いきいき教室」

脳いきいき教室は、認知症予防を
‘楽しく・気軽に’行うことが目的
です♪ミニ勉強会・頭も体も使う
体操・脳トレ問題…盛りだくさん
のプログラムでお待ちしています。
動きやすい服装で、楽しみ
ながらご参加を♪

3月17日(木)

「続・脳いきいき教室」 &「平成27年度修了式」

持ち物:材料費100円

2月に続き、前半は脳が回転する
(?!)ゲームやレクをご用意。
後半は、修了式として皆勤賞の
表彰があります。最後は簡単な
おやつ作りで締めくくりを♪

この事業は、「介護予防事業」として、札幌市から委託を受けて行なっています。

新規参加お待ちしております!会場設営などお手伝い頂ける男性参加者も大募集中!!

【すこやか倶楽部】とは・・・

65歳以上の方を
対象とした、

札幌市の介護予防事業です。

いつまでも、住み慣れた地域で心も体も
元気で暮らすための教室です。

通いやすい、地域の会館などを会場とし、
基本的に月1回開催をしております。

ぜひ、お誘い合わせで気軽にご参加を！

ご参加について

対象者：概ね65歳以上のかたであれば、どなたでも
参加できます。

費用：基本的に無料ですが、内容により、材料費が
かかる場合がございます（数百円程度）。

参加方法：直接会場へどうぞ！初めてのかたは、会場で職員
にその旨をお伝えください。

※申込が必要な月もあります。その際は、このちら
しに明記しますので、お電話にてお申込下さい。

開催場所・日程・内容・持ち物等は、このちらしのおもて面でご確
認ください。皆様に身近な地域の会場をのせておりますので、
その他の会場や、詳細については、お気軽にお問合わせください！

お問合わせ先：介護予防センター新道南 担当：^{おいで}生出典子

☎707-4129

『老後破産の悪夢』

～ 貧困、病気、孤立がもたらすもの～



NHKスペシャルで、「老後破産の現実 (2014年9月)」や「親子共倒れを防げ (2015年9月)」が放送されました。単行本で、「下流老人～一億総老後崩壊の衝撃 (2015年6月・朝日新書)」や「老後破産～長寿という悪夢 (2015年8月・新潮社)」等の悲惨現況を取り上げ、波紋が広がっています。

- ★ 都市部に出ていた子どもが中高年となり、高齢の親を頼りに同居するケースが急増。失業の子が、親の介護で戻ってきたが「親子共倒れ」に追い込まれている。
- ★ 「もっと安いところに引っ越したら生活が楽になるんじゃないですか」「毎月の生活費に追われているのに、引越し代なんかある訳ないじゃないですか」
- ★ 認知症で家計崩壊のケース。父の異変で、実家に戻ったが、部屋には、通販の健康食品で溢れ、リフォームの契約書も散逸。通帳の残高はもうすでに僅か等々。

どのケースも、**貧困や病気、孤立**などが生みだした結末であり、あまりにも悲惨です。NHK取材班は、これらの**逼迫した状況**を伝えるために「老後破産」と言うそうです。「老後破産」とは、① **収入が著しく少ない**。② **十分な貯蓄がない**。③ **頼れる人がいない**。の『三つがない』の状況であり、特に「頼れる人がいない」のリスクが高いと説明しています。

『現在の独り暮らし高齢者はおよそ**600万人**。このうち約半数の**300万人**は生活保護水準以下の収入で、生活保護受給者は**100万人未滿**ですから、**200万余の人**は、生活保護を受けずに頑張っていると言うのです。もし、病気や事故などにあつたりすると、とたんに「**生活の破綻**」・「**老後破産**」の危険にさらされる。』と、あえて厳しい見方をしているようです。

さて、これらの事例は見守りがあれば、未然に防げていたのだろうか。そうとは限らないような気がします。支援を避けるライフスタイルもあり、なかなか気づきにくい面も多い。しかし、できる限りの手を尽くさねばなりません。まずは、① 話題の事例を「知り」、危機感を「共有」する。② 自らの地域の再点検です。心配な方の特定と、訪問等で相談に乗る。③ 区の社会福祉協議会、行政と連絡を取り対策を練る。④ 地域ができることを考え、つながりを保つ。一所懸命働いてきても、企業の都合や病気で退職をする方も多いのです。地域に住む全ての人が安心して暮らせる状況を何とか維持しなければなりません。

学校外の子どもたち

～学童保育ひろっぱクラブ訪問記～

「鍵っ子」という言葉が流行っていた頃とは、色々なことが違う時代や社会になっています。その頃は、放課後、交通事故や事件に巻き込まれることも少なく、夕方5時には家に帰るように、まわりの大人が子どもたちに教えてくれました。

今は、「学童保育待機児童」という言葉があるくらい、社会が子どもたちに対し、「配慮出来ていない」「危険で脅威の多い」ものになっています。そのような中、お父さんやお母さんの力を集め、「学校外の子どもたちの安全・安心を！」と



民間で創設されたのが、取材した『学童保育ひろっぱクラブ』です。

今年は、3つの小学校(北9条、幌北、三育)から44名の児童が通っており、定員の目安は1学年8～10名程度で、指導員数は4～5名(臨時もしくはアルバイトも含む)だそうです。事前の連絡があれば、「一時保育」も受け入れていますが、条例等の施設設置基準のため、数名の「待機児童」がいます。帰宅は帰路が同じ

方面は集まり、父母の方などが随行して帰り、非常時(災害・事件等)対応は学校にならない、防災訓練のほか有事のマニュアルも作成しています。

ひろっぱクラブの特徴は「生活と遊びの場でお互いを認め合える仲間」とすごせ、隣の北13条いこい公園で野外活動も元気よくできます。帰宅が遅い時など送迎も実施し、手が足りないときは幌北第1町内会の方が協力してくれています。何よりも子どもたちが日々楽しくすごしていることに加え、父母が主体的に経営しているので、みんな、仲が良く、それぞれのつながりが素敵です。



今後の課題は、一戸建て住宅利用のため急な階段や耐震性・防火性等に難があり、



老朽化もあって改修・改善が必要です。また、二つの学校区対応は人手不足で、任意団体のため維持に難があり、経理や総務などを父母の奉仕活動に依存するとともに、1年ごとに代表者等の交替があります。経営は保育料と助成金だけなので、バザー等で資金集めをしています。

地域の皆さんの支えにはとても感謝されており、未来を担う子供たちのために持続できる取り組みにして頂きたいと思います。

笑顔がいっぱい子ども縁日

～第26回幌北ふるさと夏祭り～

7月26日、雨が懸念される中「第26回幌北ふるさと夏祭り」が行われました。

午前11時～午後1時までは「子ども縁日」で、今年で10回目です。「幌北地区福まち」を主管に、民生児童委員協議会、日赤奉仕団、福祉ボランティア、幌北児童会館、ひろっぱクラブ、北大生、各町内会役員等100名近いスタッフ数でした。

民児協の「グランドゴルフ」や小学生のゲームコーナー、ヨーヨー釣り、おもちゃすくいは大盛況でした。また、北区子育て支援係の手作りおもちゃのある幼児コーナーが好評で若いお母さんが喜ばれていました。

焼きそば、パン、お菓子、かき氷や綿あめと、お店での買い物も経験でき、短時間の子ども縁日でしたが子どもたちは楽しめたようでした。用意した11枚100円の格安チケットも有効に使われました。

午後2時から、北辰中学校合唱部のステージ演奏で一般縁日がスタート、ビール園をはじめ、焼き鳥やおでん、焼きいかにトウモロコシ、唐揚げにチョコバナナと食べ物ものにぎやかに店頭にあふれ、人の数も一層多くなりました。

なじみのバンド演奏や、チャリーディング、津軽三味線、琉球太鼓とステージも盛り上がっていました。

75歳以上の高齢者にお渡ししている500円の福祉券も、今年は準備した200枚すべて配布されました。札幌市社会福祉協議会のキャラクター「まもりん」も参加し、共同募金に一役をこなしていました。

順調だった天気も夕方から雨が降り出し、ステージ部門は体育館に移りましたが、「縁」をはじめ北大生の皆さんが会場を盛り上げてくれました。

昨年は雨で中止になりましたが、自転車や家電製品の当たる抽選会もありました。

関係者には、苦勞もありますが、地域の子どもから高齢者まで皆さんに喜んでもらえた、「楽しくてやさしい夏祭り」になったと思っています。



動物たちに癒された一日

～高齢者福祉バス(円山動物園)～

高齢者の健康づくりと交流を兼ねて、平成21年から実施している「高齢者福祉バス」は、幌北地区の65歳以上の方々を対象に毎年1回実施しています。

初回は『芸術の森』、次は『開拓の村』に行き、今年からは『円山動物園』に行きました。(参加者数に限りがあるために、幌北地区内の11の町内会を三つに分け3年かけて一巡しています。)

三期目スタートの今年は、8月24日(月)に第1～5町内会の高齢者及びスタッフで計37名の方が参加されました。この日9時30分に幌北地区まちづくりセンターを出発した貸し切りバスは、「北15条地下鉄公園」と「北13条いこい公園」を経由して円山動物園に向かいました。車中、小田島福まち運営委員長の挨拶のあと、この日の日程などが説明されました。



(動物園の前での一枚)



(みんなで園内見学)



(じゃれ合う白熊の親子)



(レッサーパンダの散歩)

動物園に到着した一行は、正門前での記念撮影、四つの班に分かれて見学を開始しました。

園内は「熱帯鳥類館」をはじめ「チンパンジー館」「類人猿館」「海獣館」「世界の熊館」「爬虫類館」など多くの館やブロックがあり、子供の頃に遠足で来た動物園との様変わりに話題は尽きず、中でも最近話題の「白熊」や、愛くるしい「レッサーパンダ」など、動物たちに癒された一日でした。

その後は、動物園を出て近くの盤溪峠を越え、炭火焼で有名な『ばんけい苑』で昼食をとり休憩のあと、「ばんけいの森」にあるロッジ「森のやさい屋さん」に寄って、新鮮な野菜を買い求め帰路に付きましました。

※ 来年は、第6～8町内会の高齢者の皆さんを対象に実施します。